

芥川だより

発行日***2015年9月1日 e-mail:akutagawa_dayori@yahoo.co.jp
最新号から創刊号まで閲覧できます。 http://akutagawadayori.sakura.ne.jp/

編集発行人 下村嘉明

発行所

☆ 着物から服へ

着物から服を仕立てます

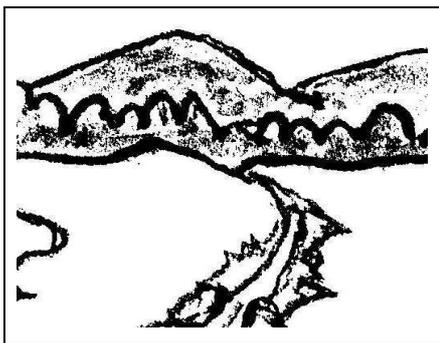
高槻市芥川町2 -1 4 -3

TEL072-681-8870



***** 一部50円です *****

政治は水だ！



坂本一光さんが「ありふれた奇跡■水の話をしよう」というタイトルで本誌に寄稿して頂いた時、友人の幾人かは「あれは、むずかしくて読めんよ。ミニコミ誌のレベルを超えて大学の講義並みだ」と言ったが、94歳になる田舎の母はちがった。「あの人は偉い人だ。わたしらみたいな者にも分かるように出来るだけやさしく書いてくれとってやわ」「水は生きる基本だ、人生の基本だ」と意外な言葉が返ってきた。

そうか、尋常小学校しか出てない百姓の婆さんでも分かるのだ。日々の生活で水の有難さを骨身にしみこんで知っているから理屈ではなく直感的に分かるのだ。

大学の工学部で学んだ友人たちが、水の話の難しいと言うのと母の「水は生きる基本だ」という言葉を考えた時に、このギャップが現代社会のギャップとなって社会問題の根底にあるのではないかと考えた。

「芥川だより」も最近では左よりですね、と思われる読者もおられるかと思いますが、昨今の政治をみていると批判をせざるをえません。左よりとか右寄りとかいうレベルを超えて生きていく基本が揺らいでいるからです。

水に右も左もありません。不純物が入らぬきれいな清水が一番なのです。生きていく為の基本は、きれいな水を飲むことです。

政治も水と同じく、生きていく為の基本です。政治が腐って不純物が混ざっては生きていけません。政治を他人任せにしていたのでは、足尾鉍毒事件や水俣病のように後になって「あのとき、止めとけば、こんなにはならなかったのに！」と悔やむことになるからです。

足尾鉍毒事件の時に闘った田中正造を思い起こしたい。

死をめぐるあれやこれ(14)

石川 吾郎

シールズデモに参加するの記

シールズ(SEALDS)は若者が中心になって戦争法案反対の運動を繰り広げ、マスコミでも注目されている運動体です。そのSEALDS 関西が先日京都でデモを行いましたので、私も参加しました。私がデモに参加するのは学生時代、新宿でフレンチデモに参加した以来なのでもう三十数年ぶり。◆集合場所の円山公園に着くと、すでに大勢のみなさんが集まっておられ、ご同輩の年配の方々も結構多くおられて少し安心。係の若者がコースなどのデモの要領を説明してくれました。またA3サイズのプラカードも配ってくれました。◆デモの開始にあたって、内田樹センセがシールズの運動の歴史的な意味について熱く語られました。著作とネットで拝見するだけだったの、ちよつとテンションアップ。このアピールは「内田樹の研究室」のサイトで読むことができます。◆うわさに聞いたラップ調のコールと、サンバドラムのリズム。最初はかなり違和感を感じたのですが、段々慣れて終わりにはそのリズムが身体に染みこんでしまったようです。祇園から四条通りを通り、河原町通りを北上するコース。歩道を歩く人たちの反応も結構よくて手をふって応えてくれます。◆このデモは瞬く間に全国に広がり、戦争法案が廃案を追い込み、日本を破壊する安倍政権を倒すまで続けられるものと思います。尚このデモには年齢制限はなく、飛び込み参加も大歓迎であることを申し添えておきます。

巻頭エッセイ	下村嘉明	1
巻頭コラム	石川吾郎	1

新自由主義特集

日本を破壊する「新自由主義」	伊藤 明	2
哲学屋「新自由主義」の経済と政治を語る	祖蔵 哲	6
悪魔のささやき新自由主義	下村嘉明	7
素老人☆よもだ帳	坂本一光	9
おっちょこちょいぼけ	A O	11
世界一周旅行記	若山哲郎	12
大人の今昔物語	石川吾郎	13
サラリーマン渡世譚	明石幸次郎	14
偶然性と確率論 あるいは未来予測	大江雄鬼	16
記憶の河原町	C	17
編集後記	嘉	17
女90年の軌跡	眞粧	18
俳句	土田裕	18

§新自由主義特集

みんなで知ろう日本の危機 (3)

日本を破壊する「新自由主義」

伊藤 明

法制、TPP、原発再稼働、秘密保護法、消費税増税・法人税減税、引き続く労働法制の改悪など、安倍政権がこれほどまでに国民の生活と生命をないがしろにする政策を続けるのはなぜなのでしょう。安倍政権の背後にある行動原理といたったものがどんなものなのか、これを理解すると今後の方向が見えやすくなると思います。今回はこのことについて考えてみます。

推測するに、大きく二つの要素を指摘できるのではないのでしょうか。まず一つは安倍晋三氏の母方の祖父・岸信介への心酔です。これはつまり現行憲法を改変して、戦前の大日本帝国の再現を目指すということ。そもそもこの岸信介という人物、戦前の太平洋戦争を起こした東条内閣の商工大臣で、当時の植民地・満州でアヘン取引で大もうけした新興財閥から資金調達をして、真珠湾を攻撃し日本を太平洋戦争へと突入させた東条内閣を成立させた裏の立役者といわれます。それが戦後は米国への情報提供という裏取引でA級戦犯から逃れ、瞬く間に首相に上り詰め（これにも米国の策動があったといわれます）、一九六〇年日米安保改訂を国民の大多数の反対を押し切って強行し、国会通過をさせたことはあまりに有名です。明らかに晋三くんはこの祖父を見習っています。さらにこの流れには「日本会議」という極右の集団（海外メディアからは、国内最大の国粋主義者団体とみられ、安倍内閣の大臣の多くが入っている）が大きく関与しているといえます。

（このあたりの事情に興味のある方はウェブサイトで「LITERA」で岸信介を検索して記事を読んでいただくのが参考になります。）

そして二つめが、今回取り上げる「新自由主義」というものです。これは、グローバル巨大企業に飲み込まれてその利益代表になっている米国政府が日本政府に要請（事実上命令）してくる個々の政策の、バックボーンをなす思想でもあるのです。

◆新自由主義とは何か？

新自由主義とは、何やら一見学問的な響きをもって小難しい印象をもちますが、その具体的な表現・現れは、驚くほど単純なもので、かつ原始的で凶暴なものなのです。

そもそも新自由主義はというものは、米国（だけではありませんが）の巨大企業が自らの儲けを拡大するための仕掛けを、政治権力と緊密に癒着して、日本を含む多くの国々に押しつけてくる、民主主義を破壊するイデオロギーなのです。

戦後の民主教育を受けて育ってきた私などは、このような邪悪な代物が世界中にはびこって増殖しているというところを知ったときには、正直に言えば驚きを通り越してショックを受けたのです。これは民主主義に敵対し、人類社会を弱肉強食に作り替え、大げさでなく奴隷状態への退行をもたらしかねない危険な畏なものです。この文章を通じて、私は皆さんにこの危険性を知っていただき、日本が

この畏にはまらないための運動を盛り上げていきたいと、切に願うのです。

安倍政権がまさに新自由主義の申し子であることはこれからお話をしていくのですが、じつは日本で新自由主義の政策を大々的におこなったのは中曽根・小泉内閣以来であり、民主党政権でも、菅内閣、野田内閣はまさにそうでした。本場米国ではレーガン、ブッシュの二人の共和党大統領は新自由主義の権化であり、鉄の女といわれた英国のサッチャー首相が行ったのも新自由主義の政策でした。民主党のオバマ大統領も例外ではありません。彼がとりわけ巨大生命保険資本や製薬資本、軍需資本などに操られていることは有名です。今後二大政党制の米国にどんな大統領が出たとしても、それは米国の巨大企業の利益を代表したものになるはずなのです。なぜなら現在の米国大統領選挙の仕組みが莫大なカネをふんだんに使わなければ勝ち抜いていけない仕組みになっており、巨大企業たちは両党に対して巨額の献金をし続けているからです。その結果どちらの党が勝っても、結局のところ大統領は献金のあった巨大企業たちの操り人形になってしまふ、という構図ができあがっているのです。そしてその巨大企業は米国内をむさぼり尽くし、次には日本国内の潤沢な富に狙いを定めてきており、その現れがまさにTPPなのです。そうです。TPPの正体は日本の社会を断然効率的に新自由主義の支配する世界に作り替えようとするものだったのです。

◆「新自由主義」の基本的な考え

では「新自由主義」とはいったいどんなものなのでしょうか。箇条書きにすると次のようになります。

- ・市場原理主義：市場が人間を支配するのがもつとも公平だとする。社会のすべてを儲け・投資の対象とする。
- ・規制緩和・民営化・小さい政府。
- ・資本移動の自由化・グローバリズム・グローバル化。
- ・富裕層・大企業の利益優先・貧困を作りだし、格差を拡大する。
- ・労働力を流動化する：派遣労働を推進、労働環境を劣悪化。「底辺への競争」

- ・累進課税の否定：税を富裕層に軽く（法人税減税）、貧困層に重くする（消費税増税）。
- ・所得再分配・社会福祉の否定：自己責任論（貧困になるのは自分のせい）
- ・政府と強く癒着をして民主主義を破壊し、グローバル企業が支配する社会を作る。

- ・そのためにメディアを操作・支配する。国民の目を重要な事からそらす（エンタメ）。
- ・景気対策としては、金融政策優先・パブルをつくる。

などというのが、その主な主張と方法と言えらるでしょう。

これらの項目は互いに密接に結びついており、一つ一つを切り分けることは困難ですが、これらの項目が一致して示しているのは、国民の大部分（九九%と言われる）を収奪して貧困に追いやり、巨

大グローバル（多国籍）企業（1%のスーパーリッチ）をさらに大もうけさせる方向を指し示しているのです。

実際にこの新自由主義的社会に作り替えられてしまった米国や韓国では、一般国民が悲惨な状態に陥っていることが伝えられています。この事実についてマスコミはほんのわずかしか伝えていません。米国の例については堤未果氏の著作を読まれることおすすめます。以下これらを説明して行きましょう。

◆市場原理主義

市場が人間を支配するのがもつとも公平であり、政府は市場には何もせず規制・介入は止めるとするものです。これによって従来行われてきた各種の保護政策・規制については撤廃をすべきだと主張します。本来公共的であるべき社会保障、医療、教育の分野まで市場化をして、民間ビジネスを参入させてカネ儲けの場とし、利潤原理にゆだねてしまうのです。ここから各種の規制緩和・民営化・小さい政府などの主張も出てきます。

◆資本移動の自由化・グローバリズム・グローバル化

市場の各種の規制を緩和・撤廃するということとは、言い換えれば多国籍企業や国際金融資本が活動しやすい条件を作ることにあります。つまり社会のあらゆる部門を投資およびビジネスの対象にする、ということなのです。

しかし社会の中には国民の生命や健康

文化的な生活を守る社会保障の分野など、このような利潤を追求することとは相容れない重要な分野が厳として存在しています。すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と憲法が保障する生存権がそれです。新自由主義はこの生存権すら、儲けのために侵害していくのです。

福祉国家という観点からすれば、国民皆保険制度などは個人の自由を守る社会制度に他ならないわけですが、新自由主義は**社会福祉そのものの価値を否定**します。彼らは自由というものを市場における選択と考えます。貧困をなくすなどの

よい目的のためであつても、政府が他人のためにお金を使うことは、究極的には個人の自由を奪うことであると主張して、福祉国家は隷属への道なのだと言張ります。これはまさに弱肉強食の社会に逆行させようとする道に他なりません。

◆労働環境の破壊

新自由主義は、労働市場において人々を搾取して資本が儲けを最大するように、労働関係の法律の改悪を推し進めようとしています。その結果、雇用が流動化して「底辺への競争」と言われる状態が出現します。

グローバル化した企業は、安い労働力を求めて海外に生産拠点を移し国内の労働者を解雇する。他方で海外の低賃金・無権利労働と競争が必要という理屈で、国内の労働法制を「規制緩和」（労働基本法の改悪、派遣法の制定・改悪など）を

進めていきます。さらに労働力不足を口実に、安く使える移民を受け入れ、日本の労働者を安くて劣悪な条件で競争させようとしています。つまり新自由主義は、グローバルな市場を前提にして国内の労働者を、発展途上国の労働者との競争に駆りたて、ますます低賃金・劣悪な労働環境へと日本の労働者を追い込んでいくのです。これが「底辺への競争」と呼ばれるもので、この「畏」といえるやり口によって、日本の労働者は劣悪な条件で働かされ、失業に直面させられることになってしまふのです。

さらに失業者や派遣など身分の不安定な非正規労働者を、低賃金・無権利の「相対的過剰人口」として大量に作り出す一方で、他方では正規の労働者と競争をさせることによって、正規労働者にも低賃金・長時間労働を続けさせようとするわけです。これは一九世紀的な古典的な資本主義のやり口と同じで、資本主義が労働者を支配する方法の原点といつてよいもの。マルクスが『資本論』のなかで解明している状況なのです。つまり新自由主義は、十九世紀や二十世紀初期の弱肉強食の時代へと、二十一世紀の現代社会を後退させようとするのです。このような状況は「貪欲資本主義」とも表現されています。

◆累進課税の否定

また税についても新自由主義の政権は、消費税の増税と同時に法人税の減税を行い、国民の九九%の生活を犠牲にして、

大企業のさらなる儲けに奉仕しているのです。消費税は弱い者・収入の少ない者により負担を強いる悪税です。これにより国民の生活を圧迫し、個人消費を冷え込ませ、景気をさらに悪化させることにもなります。よく言われるように「お金には色がついていない」ということを考えあわせると、政府が何とごまかそうとしても、消費税の増税は法人税の減税による政府収入の減少の補填になっていることは否定できません。新自由主義の政

権は、大企業を優遇して儲けさせればいずれその利益が下々にしたり落ちて国民は潤うのだ、という「おこぼれ トリクルダウン」理論を主張します。しかし歴史的にこれは成立しないことは、すでにはつきり証明されています。大儲けをした大企業はその利益は内部留保するか株主に配当として還元するのであって（それをしないと経営者は背任に問われる）、しかもその株主はグローバル企業では多くが海外の大投資家なのです。国民に「おこぼれ」がまわるどころか、国内の富を海外の投資家に吸い取られている構図なのです。

かつてトヨタ自動車の社長・豊田章男氏は、世界一の自動車会社になったとき驚くべき発言をしました。曰く「一番うれいのは納税できること。（自分が）社長になってから国内では税金を払っていなかった。企業は税金を払って社会貢献するのが存続の一番の使命」と。実際二〇〇八年から五年間トヨタ自動車は法人税を払わなくてよかったというのです。

しかも豊田章男社長は法人税を払いたくして仕方がなかったとは！ 消費税の相次ぐ増税で国民の生活を窮地に追いやりながら、世界一の企業にこれほどの優遇を続ける政府の姿勢を読者の皆さんはどうお感じになるでしょうか。

◆民主主義の破壊と癒着構造

このように新自由主義は、日本の社会の仕組みを根底から覆して、日本社会のすべての分野を、投資や儲けの場に組み替えようとするのです。そのために一番じゃまなものは民主主義であり、それを保証する「日本国憲法」なのです。そして新自由主義は、政権と深く癒着して民主主義的制度を破壊していこうとします。その例を米国と日本について見てみましょう。

癒着の構造 アメリカの場合

アメリカ・ブッシュ（息子）政権は、アフガニスタン・イラク戦争を始めたという歴史的な失政を犯しましたが、その結果アメリカのハリバートンといったグローバル企業は、戦争でアメリカが破壊したイラクのインフラの再建を請け負い、莫大な利益をあげたと言われています。しかもそのときの副大統領チェルニーが当のハリバートンの社長であったのです。このように政府の中枢に入りこみ、それと癒着をして政治を思うように動かすことは「コーポラティズムと呼ばれています。政治と大企業の究極的な癒着であるコーポラティズムは、アメリカの政府には避

けがたく蔓延しています。

現在のオバマ政権においても、オバマ大統領が進めた「保険制度」の導入の場合では、生命保険会社の首脳が政権の中枢に入りこみ、その法案を作成して自らが大もうけできるような法律のしくみにしてしまったことがわかっています。これは政府と企業間の「回転ドア」と呼ばれていることです（堤未果氏の著作に詳しく述べられている）。これ以後アメリカの大統領はつねにこの大企業との癒着を続けることになるのは明かなのです。というのは先に述べたような事情で、巨大企業が二大政党どちらにも多額の寄付をしてどちらが勝利をしても影響力を行使できるようにしているからです。

癒着構造 日本の場合

では日本での癒着はどうでしょう。それが存在しないわけはありません。その一つが「諮問委員会」というしくみでしょう。諮問会議は、内閣総理大臣の諮問を受けて政策についての事項を調査審議するとされる会議を指します。とくに経済財政諮問会議は日本の内閣府に設置され、総理大臣の諮問を受けて経済財政政策に関する重要事項について調査審議するとされるもの。大臣や日銀総裁の他に「民間有識者」なるものがそのメンバーとして任命されます。これは当然のように大企業の経営者やその利益を代表する御用「学者」などになり、大企業の利益が強く反映され、新自由主義の政策が提言されることになるのです。その答申に

よって権威付けを行って政府は政策を実行していく。諮問に対する答申という一種の儀式によって国民の目をくらましていくといえるでしょう。NHKニュースなどで、ときに仰々しく報道され権威付けられた印象を振りまきますが、国民の多くはこれが何を意味しているのかは理解していかないだろうと思われれます。

ここで特筆に値するのは、日本の新自由主義の代表と言える竹中平蔵氏でしょう。諮問会議の議員をしている竹中氏や楽天社長の三木谷浩史氏らが提案するのは、雇用・農業・医療などの規制緩和であり、手放しの新自由主義礼賛・グローバル化促進策です。竹中氏は郵政解散後の第3次小泉内閣にて郵政民営化担当大臣に登用され法案作成に携わっています。これは郵貯・簡保の資金を外資に売り渡すためであったと批判されているもの。また同氏は格差社会を生んだ元凶ともいわれる労働者派遣法の制定やその改定に深くかかわっています。派遣就労を日本社会に導入・拡大し、労働環境を悪化・流動化させ、派遣業界を急成長させた竹中氏その人が人材派遣最大手のパソナグループ会長に就任し「これぞ究極の天下り」と言われたのは有名です。パソナはこの法律により、莫大な収益をあげているのです（本人も大もうけであることは想像に難くありません）。多様な働き方という美名のもとに、労働者を好景気では雇い、悪くなれば解雇する調整弁にしたのが（改正）派遣法です。これにより人材派遣業界は拡大繁栄し、国民には雇用

破壊が押しつけられ、貧困へと追いやりれつつあるわけです。まさに新自由主義の典型的な手口と言えるのです。若者には貧しくなる自由がある。そのときに頑張るって成功した人の足を引っ張るな」正社員をなくせばいい」などという竹中氏の発言を聞き逃すわけにはいきません。

しかし事態は、悪辣な個人の問題には還元できない大きな問題をはらんでいきます。それは日本という国家の独立性という、国の根幹にも関わる問題なのです。

◆日本は米国の属国であるのか

安倍政権の行うことがあまりに反国民的であることは、多くの国民が感じていることです。背後に米国政府の強い要請があることは容易に想像がつくのですが、先頃その具体的な姿が国会の場で明らかにされました。つまり日本の政治が、米国の巨大企業の思惑と日本の中の売国勢力（国民の九九%を貧困に追いやり日本の富を海外に流出させることは、売国以外の何ものでもない）によって執行されている具体的な過程が、初めて国会の場で国民の目に明らかにされたのです。

これは参院安保特別委員会（二〇一五年八月一九日）で山本太郎議員がその質問の中で明かにしたのです。第三次アーミテージ・ナイレポート」というものが存在していて、それが日本政府に対する「提言」として主張していることが原発再稼働であり、TPP、秘密保護法、集団的自衛権など、まさに安倍政権の政策がごり押しで推進する政策そのままであ

第3次アーミテージ・ナイレポート(2012年8月)

～日本への提言(9項目)

1	原発の再稼働
2	海賊対処・パルシヤ湾の船舶交通の保護、シーレーンの保護、イラン核開発への対処
3	TPP交渉参加～日本のTPP参加は米国の戦略目標
4	日韓「歴史問題」直視・日米韓軍事的関与
5	インド・オーストラリア・フィリピン・台湾等の連携
6	日本の領域を超えた情報・監視・偵察活動 平時・緊張・危機・戦時の米軍と自衛隊の全面協力
7	日本単独で掃海艇をホルムズ海峡に派遣 米軍との共同による南シナ海における監視活動
8	日米間の、あるいは日本が保有する国家機密の保全
9	国連平和維持活動(PKO)の法的権限の範囲拡大
その他	
10	集団的自衛権の禁止は同盟にとって障害だ
11	共同訓練、兵器の共同開発、ジョイントサイバー・セキュリティセンター
12	日本の防衛産業に技術の輸出を行うよう働きかける

2015年8月19日 参議院我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会 生活の党と山本太郎となかまたち・山本太郎
第3次アーミテージ・ナイレポート/海上自衛隊幹部学校ホームページ コラム033より 山本太郎事務所作成

り、安倍政権は米国の要請（事実上要請ではなく「指令・コマンド」）に完全に沿うように政治を行っている、というのです。山本議員は「完全コピーだ」と表現しています。またこの事実は「永田町ではみんな知っているが、だれもわざわざ言わないこと」であるとも表現しました。確かに驚くことには、この「アーミテージ・ナイレポート」はネット上で誰もが閲覧できるようになっていて秘密でさえありません。ただ報道されないで、大部分の国民が無知の状態にあっただけなのです。国民は実に馬鹿にされたものなのです。このアーミテージとナイと言うのは米

米国の産軍協同体と密着し日米軍事協力を最優先させている。この語をネットで検索をしてみてください。驚くべき情報が見られると思います」として夙に有名であり、安倍氏はこのグループにごく親しくしている（お伺いを立てているというのが実情だろう）というのです。このことは日本という国の政治が米国政府に操られていて、独立国というより米国の属国というにふさわしいものであるということを意味しています。ぜひ山本太郎氏のホームページの閲覧をおすすめします。ここには国会の質疑の動画が見られるようになっていきます。

さらに不思議なことに、国会の場でこれまで誰も語ることもなかった、この驚くべき重大な事実について、マスコミは今でも触れようとしていないことですから（八月下旬現在、唯一東京新聞が小さく報じた）。ネットでは非常に大きな話題になっているのに、新聞やテレビニュースでは全く取り上げられない。この日本の報道の不可思議さは、異常であると言えます。この不可思議さの奥には、安倍首相が日本のメディア各局の重役と会食を重ねているということと深く関係していると思われまます。これはまさに政治権力によるメディアの支配を意味しており、このような場で政権の意向をテレビや新聞各社がお伺いをたてている、という構図が浮かびあがってくるのです。

◆付論：情報源としてのネットの利用法について
全国新聞やテレビ、ネットのヘッドラ

インニュースくらいしか見ていない人は「これらでは知ることができない極めて重要な情報の存在に気づかない」という事態が大いにありえます（この連載を始めるまでの私自身の場合に他なりません）。つまり権力によるフィルタールのかかった情報だけでは、真実を知ることができない可能性が高いと思われまます。今述べたようにメディアの経営者が安倍政権と緊密な関係を作っているという事態は、権力の監視役を担うべき報道機関としては自殺的な構図ができあがっていることです。これは民放だけではなく、NHKにも顕著で、その会長の舛井某という人物自体が安倍政権が送り込んだ者で、政府に批判的な主張や意見を無視をしたり不当に過小報道して、政府に都合の良い情報を無批判に垂れ流している状態です。これは戦前の大本営発表に近い状態といえるでしょう。

私たちがこのようなメディアの現状に対抗していくためには、どのような方法で正確な情報を伝えることができるのでしょうか。マスコミ各社が報道しようとならない重大事項についても、幸いネットには膨大な情報があがっており、その中から適切なものを選択することで必要な情報を得ることが可能です。しかしそれは少しのコツと能動的な姿勢が必要になってきます。

おすすめしたいのは、たとえばネットの「しんぶん赤旗」（共産党らしいのも、マスコミが載せない記事を書くので注目）。またツイッターで SEALDs

LITERA、金子勝、内田樹、小池晃、堤未果、山崎雅弘氏などのつぶやきを見て、そこから気になる記事に広げていくだけでも、ずいぶん目が開かれるのではないかと思います（本紙の投稿者・石川吾郎氏のツイッター@55gogo も参考になります）。

しかしネットを利用して、マスコミに出ない情報を収集することができるといふのも、**日本国憲法が国民の思想信条と表現の自由を保証しているからこそなのだ**、ということ忘れてはなりません。たとえばネットが厳しく検閲されている中国ではそれもできません。さらに言えば**自民党が準備している「憲法改正案」では、この自由に制約を課して国民から奪おうとしているのです**。

そして安保法制に反対する国民的な運動が盛り上がりを見せマスコミ報道がさらに集中される裏では、これも**憲法違反の「盗聴法」の大改悪が衆議院で進められようとしており、「こちらにも注視が必要なのです**。

《次回に続く》



哲学屋のつぶやき (15) 哲学屋、「新自由主義」の経済と政治を語る

祖蔵 哲

哲学屋がまたもや経済学を語るという状況になってきましたがもう少しお付き合いください。一般に哲学と経済学はなじ文科系でありながら両極にあると思われると思います。いやむしろ最近の経済学は数学を多用するので理系に分類されてもおかしくない分野になってきました。しかし、「国富論」を著し近代経済学の父と呼ばれているアダム・スミスは哲学者でもありました。かれの『**道徳感情論**』は、本来利己的であり個体として独立している個人が、集団の中では「共感」にある種の原理とし第三者のようにふるまう「公正な観察者」を介してまとまっているということを描いています。経済学とはあくまで人間個人の集合であるところの社会の動きを学問するもので、そういう意味では心理学ともまた社会学とも親和性の強い学問であり、人間の思考が関係するという状況である限り哲学は必要となります。先月号で本号は新自由主義の哲学的解釈から始めると予告していましたが、このテーマが今月の本紙の特集になったため、まず少し本来の純粹哲学から少し離れ、もう少し経済学の話が続けましょう。

新自由主義は様々な定義されます。その原義はもちろん自由主義から始まりますが、それは今日、主として経済学的な意味において使われることが多いようです。インターネットのフリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia) によると、新自由主義とは「市場原理主義、経済的自由主義、自由貿易、市場経済、民営化、規制緩和などを提唱し、現代社会の中では公的部門の比率を減少させ民間部門の役割を増大させる政治思想である」とあり、すでに政治思想を含んでいることも示唆しています。そしてまた同時に哲学的な意味も含みます。

そもそも、政治学的な「自由主義」というのは、「社会契約説」に由来します。十六世紀前期のトマス・ホッブス、後期のジョン・ロックそして十七世紀前期のルソーです。三者はいずれも「自然状態での人間の行動」その本来性から自由を定義しました。ホッブスは「人間は本来利己的で自分の利益のためには他人を傷つけ、自然状態では闘争になる」という性悪説から、ルソーはそれに対して人間は自由状態が理想であるという性善説から考えを始めそれらを保障する国家の限定的制限必要性を説いています。ロックはその中間であり、ホッブスの思想が絶対王政を根拠づけたのに対し、彼の思想は国家に対する抵抗権の必要性を認め、一六八八年の名誉革命の思想的背景にもなりました。でもしかしそれは王政とい

う範囲内での変革であり国民による真の意味での自由の獲得はルソー思想の影響を受けた一七八九年のフランス革命から始まります。

「自由」という概念を政治的対象として取り扱い、それを哲学的に思考した最初の人はジョン・ロックです。このコラムの読者にはすでにイギリス経験論の主導者として以前説明しているので周知でしょう。彼は何人も侵すことのできない固有の権利として「生命」「健康」「自由」「財産」の四つを「自然権」として考えました。特に、自己保存の概念に「自由」と「所有」を含んだことは資本主義の形成に影響を与えました。

さて経済的意味における自由主義は古典的経済学のアダム・スミスが一七七六年に著した「国富論」の「見えざる神の手」（レッセフェール）に始まります。「国家や企業が個人の経済活動に干渉せずに市場のはたらきに任せる」これは自由放任主義とも呼ばれています。こういう意味ではアダム・スミスも人間の性善説の立場だったかもしれません。しかし、市場という人間の意識の集合体が自動的に矛盾を解決していくという思想はどこから生まれているのでしょうか。経済学的には需要と供給の関係であると思われませんが、神という言葉で表現するとどうも聖書にある終末論を思いだします。すなわち人類は最終戦争の結果、神の手によって救われるという神の国、救済論

です。それはさておき、資本主義とは本来このようなものであったわけですが、政治学的自由主義の問題と同じように人間の本来性が性善説か性悪説かどちらなのかということが現実に問われるようになりました。

資本主義の宿命である恐慌の発生です。一九三〇年代に起こった世界大恐慌は戦争という惨禍をもたらし再びこの問題が問われたのです。様々な解答と対案が考えられ実施されました。根本的な解答が資本主義の否定です。マルクス主義はその剰余価値説に基づき、資本に価値を付与するのは労働者による労働力であると分析しました。それゆえ、その利益を享受するのは資本家ではなく本来その価値を付与した労働者であるべきであるという思想のもと、恐慌そのものを歴史的必然と捉え、市場の自由というものは資本家の独占の場であるとし、そこでの自由を否定しました。これが歴史的現実面では社会主義国家の誕生になりました。しかしその計画経済は現実の経済に対応する柔軟性が欠如した結果、対抗する世界資本主義市場において敗北に終わりました。そして生き残ったのがケインズ型資本主義です。これは、資本主義のレッセフォーレを一部制限し必要ときに国家が経済介入を行うという言わば修正型資本主義です。有名なのは一九三三年にアメリカのルーズベルトが行ったニューディール政策です。これは公共投資による政

府主導の景気刺激政策です。この政策はその後第二次世界大戦が起こったために実質的な効果の結論は出ていませんが、日本にも戦後その手法は導入されました。マーシャルプランによる戦後復興とその後の経済発展は一定の成果を上げたように見られていました。そして同じように世界経済レベルでも自由は統制され、一九四四年にブレトンウッズ協定において各国の通貨はアメリカ・ドルを基準とする固定相場制が導入されました。しかしその後、日本を含む発展途上国が次々と経済回復を遂げるなかで、アメリカにおいては製造業において国外の安い労働力を求めた結果として産業の空洞化が起こりその固定相場が維持できなくなりました。ついに一九七一年スミソニア協定によって固定相場制は終焉し変動相場制に移行したのです。この時点で資本主義は再び本来の「自由主義」に回帰したと言えるでしょう。

「自由主義」に回帰した資本主義は再び失敗を回避すべく考えたのですが、驚くべきことに、その欠陥を「自由の本来性」を問うことではなく、「自由の不徹底」にあるとしました。すなわち、今までの資本主義は国家が様々な規制によって市場の自由、個人の自由を阻害していたからうまくいかなかったのだ、初心に帰れと訴えたのです。

ワシントン・コンセンサスという経済用語があります。一九八九年に国際経済

学者ジョン・ウイリアムソンが提出した論文に基づいてアメリカを中心とする世界銀行、IMFなどの国際資金機構が途上国の累積債務問題に関して、いわゆる「新自由主義」の導入を援助の条件としました。「規制緩和」「貿易の自由化」

「民営化」など市場原理、小さな政府などアメリカ主導の経済原理を他国に押し付けるものです。世界の経済体制はブレトンウッズからスミソニアへ、そして現在のワシントン・コンセンサスへの変貌していったのです。現実の政治ではいち早く一九八〇年代になりアメリカのレーガン イギリスのサッチャー、日本の中曽根がこの政策を取り入れていました。

しかしなぜ、この一見、ウルトラ懐古的保守的な「新自由主義」が突然復活したのでしょうか。D・ハーヴェイによると一九七〇年代の経済成長期の破綻と資本蓄積危機によってヨーロッパを中心に社会主義的政党が台頭し当時の経済的エリートが自分達の政治的地位が危機に晒されていると感じたからであるらしいのです。ではなぜこの思想が世界で受け入れられ、今ではコモンセンス(常識)とまでになつてきたのでしょうか。我々は「なぜ喜んで資本主義の奴隷」になるのでしょうか。

ここに再び「自由」の概念が問題となります。本来、「個人の自由」という価値観は社会的公正という価値観と両立しているのかとすると甚だ疑問であるはずな

のですが、ひとたびそれが「表現の自由」や「言論の自由」に置き換えられると普遍的価値に転化されてしまいます。「自由」という甘い誘惑は誰でも陥りやすい罠です。さらにこの「自由の選択」の結果は自己責任とされます。ここに「新自由主義」エリート達の巧みなレトリックが隠されています。私たちは自分達で選択した自由でないものの責任を押し付けられているのです。これは強者の理論そのものです。

さて、新自由主義の経済思想は次の三つです。まず第一は「富で優先されるべきものは分配ではなくその創造である」という。富の分配を悪平等とし個人の努力の成果報酬に重点を置いていること。第二は「経済成長には需要喚起ではなく供給サイドの経済改革を優先すべき」という生産重視の経済理論です。企業の生産力強化のために企業減税を実施し規制緩和をするわけです。普通は供給があっても需要がなければ物は売れないと思うのですが、彼らの理屈は企業の生産力が上がれば賃金も上がりそれにより購買力も増え需要が増大するというものです。三番目はトリクルダウン理論による「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が滴り落ちる(トリクルダウンする)」という景気循環説です。以上三つの思想に共通なものはいづれも一部の特権階級エリート層を擁護する理屈です。いわゆる一パーセントの富裕層が世界の富の半

分を保有している現実を保全する理論以外のなものでもありません。ここには経済エリート達の欲望があらさまに表されています。

以上、新自由主義について歴史的にその出現過程を検討し、経済学的、政治学的の特長を研究しました。ここでこれらの学問を少し離れて現実の世界に目を向けてみましょう。現在この新自由主義の中心の国は言うまでもなくアメリカです。

ではなぜアメリカがこの経済政策を採らなければならなかったのかを話してみたいと思います。先月号にも一部書いたのですが、それは実態資本主義の行き詰まりからです。かつてアメリカは世界の生産工場として航空機、自動車、コンピュータなどを自国で製造していました。しかし、前段でも述べたように周辺諸国の相対的生産力の向上により国内での産業の空洞化がおこり資本は国外に移転することになりました。その資本移転を容易にするのがグローバルズムという制度なのですが、アメリカは労働力の安価なフロンティアを求めて世界をくまなく支配しました。しかし、アフリカの奥地までたどり着いたときその野望は消え去りました。搾取すべき実態的な糧を失ったアメリカがむかつた新たなフロンティアは金融という仮想空間の富です。利子というものは将来生産される価値の増加に対して生じるものなのですが、金融商品は架空の価値を創造することにより富を生

み出そうとします。そしてまた先月号に書いたようなギリシャの経済破綻の原因となった不良債権を細分し証券化するという詐欺まがいの経済行為がまかり通っているのです。従来の資本主義であれば当然規制されていたはずですが。しかし新自由主義という大儀のもと誰も規制は出来ません。そもそもグローバルという世界のなかで対抗できる国家というものは存在しなしのです。TTPもこのような流れにあるというのは明白な現実です。世界的な観点でみればトリクルダウンによつてアメリカの富を二番目に享受しているのが日本の本音でしょうが、そうはならないでしょう。なぜならすでに富を回収するという国家の機能は失われているからです。富は直接個人に分配されることを忘れてはなりません。

さてこの思想はどこから生まれ、なぜ世界を支配するに至ったのでしょうか。その鍵を握る人物が一九七四年にノーベル経済学賞受賞したオーストリアの経済学者ハイエクです。彼は当時台頭していた社会主義計画経済の研究をして市場メカニズム優位の理論を打ち立てました。また通貨の自由化も理論化しグローバル経済の門戸を開いたといわれています。そのハイエクが対決したのが全体主義と共産主義です。これは彼がデカルト以来の人間の理性による合理主義を否定するという立場にたっているからです。人間の理性が考えた国家統制や計画経済は徹

底して非合理になるといのがハイエクの思想です。そうではなく、試行錯誤を重ねた個人の集合が結果としてよいものになるというイギリス経験論の立場に近いのが彼の立脚点になっています。

いよいよ、新自由主義の核心にはいつて来ましたが紙面の残りもわずかになりました。次回はすでにお約束のとおりその新自由主義思想の哲学分析をこのハイエクを中心行つてまいりたいと思います。この分析をするということはすなわち現在の世界の思想を分析することにもなり大変スリリングな内容に入ると思いますが、ご期待ください。

政治が震んでいく(1)

悪魔のささやき新自由主義

下村嘉明

人はそれぞれ違った環境で生きている。人の能力はさほど差はないのだが、置かれた環境で大きな差となって現れる。山奥で百姓をする人が稼ぐ収入と都会で働く人が得る収入では、大きな差がでてくる。この差を埋め格差を少なくする方策を考え実行するのが政治の役割である。山の自然を守り食糧自給の為に日々働いていても収入は少ない。

おなじように働いても環境の違いは収入の多寡となる。これは仕方のないことである。

このように防ぎようのない格差を出来るだけ少なくし、みんなが公平に生きられる施策を考えるのが政治の果たすべき役割なのである。

しかし、昨今の政治は本来の役割を忘れ格差拡大を当然のように方向転換してしまつた。この間違つた方向に導いている考え方が、新自由主義なのである。

どうして自由主義に新をつけなければいけないのか。自由主義ではいけないのか？

どうもよく分からなかつたが、今の社会状況をみるとおぼろげながらみえてくる。

一番身近なところでは、市町村合併がある。私の田舎も三町村が合併して一つの町になった。議員や職員も少なくなつて町財政も豊かになるという前評判があつた。切羽詰まつた理由は町の債務が膨らんで返せないことであつた。合併すれば国が助成金を出して債務を少なくしてくれる、というアメが人を動かしたのである。

どうして町の赤字が増えたのか、それは国の補助金政策にあつた。国の政策に従い事業計画をすれば、国や県からそれぞれ三分の一ずつ助成金がもらえ、高度経済成長で税収も増えていたから政府のいう通りにやった結果、町財政に大きな債務をつくつてきたのである。これが日本国中の市町村が置かれていた状況である。もちろん国の補助金といえども税金

ではある。債務が町から国へ移転されただけである。

時を同じくして、農協の合併がある。

農協事業で利益が出るのは共済ぐらいで後は赤字である。農協も債務が大きかったのである。合併とは職員の合理化・首切りである。この嫌な役を親戚の叔父がしていたが「合併などするもんじやない。人を辞めさすのはつらい。ひと段落つけば自分も辞める」と言っていた。私が「合併はしない方がよいのか？」と聞けば「合併などしても良い事はなにもない」とも。役場と農協の合併は職員を減らし、町を一層さびれさせた。赤字という誰もが反対しにくい理由で農村の解体が始まったのである。

街では大型店舗規制法が廃止になり一気に大型店舗がいたるところに出来た。その結果、商店街はさびれシャッター通りと言われるようになった。商店街の古老は、百貨店が来るというので反対もあつたが「百貨店幹部の話聞いてみると、商店街のためなら何でもしますよ、というから賛成した」と言う。

田舎も街も大きな変化をしていく、その根底には新自由主義という考え方があつたのではないか。そんなことに国民は気づかなかつたが、流れは出来ていたのである。

素老人☆よもだ帳(18)

坂本一光

◆何という無法者 永遠の戦後にしたい七十年を 戦前元年にするという

「アベ政治を許さない」一〇〇万の声が国会に轟いても、九月二日現在、国会の多数派は耳を貸そうとしない。安倍自公政権は、安保法案または安保関連法案(国家及び国民の安全保障や平和に関する法案というより、私には『戦争法案』または『戦争立法』と言う方が遙かにふさわしいと思えるが)を国民の多数派の声を無視して強行成立させる姿勢を崩していない。祖父が安保改定と心中したように、安倍総理はこの法案と心中することになつてもよいと覚悟をしているかもしれない。しかし、憲法を無視し、民主主義を踏みにつつたとき何が起きるか。その先の政権の転落までは見通せていないと思ふ。戦後十五年の一九六〇年と、戦後七〇年の二〇一五年とは同じ戦後ではない。誰の陰謀または権謀術策によるか、前に書いたとおり数十年をかけて国民各階層にもかかわらず、戦争法案に対する国民各層の反対は強く、揺るがない。

戦後民主主義は死なず老若男女平和と民主主義のために起つ

国民の身丈に合ったアベ政治、ではないのである。

平和と民主主義のために：日頃は意識下に沈んでいたその思いが、風雲急を告げるなか男女を問わず老いにも若きにもふつふつと湧き上がり、戦争法案に反対し、九条を壊すなどという行動に駆り立てている。かたちは心であり心はかたちになる。国民の行動はその典型のように見える。そこには、自分の中にある最良のものに背かない、自分が誇りとするものを裏切らない、自らの良心にのみ従つて行動するという自立した人間の姿がある。それは思想・信条・宗教等の違いを超えた人間らしい姿である、と私は思う。百万の声に、私は人間精神の独立と自由を見る。組織的抵抗をつぶすには組織の中核を叩けばよい。それで組織構成員は雲散霧消する(はずである)。しかし、組織的でない、つまり無数の個に分散した抵抗をつぶすには、個の数に見合つてつぶす組織も大きくなければならず、そのためには膨大なエネルギーを費やさなければならぬ。無数の個を一つ一つつぶすことは、もの言えぬ独裁権力が「確立」してない限り不可能に近いのである。しかも、必要な時に個はいつでも集合し連帯し巨大なうねりとなることができる。私には、小さな水分子が集合しつながら、海鳴りとなつて轟く光景が重なる。組織的抵抗を見事に削いだ権力は、そのつけが「自分のことは自分で決める」自覚した個の力の結集連帯としてよみがえることを想像しただろうか。

前口上は以上、今回はもの申したいことを自ら詠んだ短歌と川柳にゆだねることにしたい。二〇一三年暮れから二〇一五年の今日までの自作である。駄作であることに加え、主題の性質上少々過激ならざるをえないことを、またこれまでの連載中引用との重複をお許し願いたい。

◇東日本大震災と原発事故、再稼働の問題など(短歌)

『想像力 資本主義』から二十年余山荒れ海も村破れ人も

フクシマの山荒れ村は破れても『想像力 資本主義』にまだ万歳を言う

『想像力 資本主義』は、東西冷戦終結後、つまりソ連邦崩壊後のS A N Y O (三陽商會)の広告文。また、渡良瀬川流域の足尾鉍毒事件を闊つた田中正造の日記には「真の文明は山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」の言葉がある。東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故のおよそ百年前、一九二二年のことである。再稼働を進め、戦争法案を平和のため国民の安全と安心のためという人たちに聞かせたい。日本には失われた百年があつたのだ

みちのくに春呼ぶ桜國中の願ひ集めていっせいに咲け

自然の子よ自然はまちがわなないまちがうのは人間である

季節みな美しい国の成り果てし花も実もあり根も葉もない国

零下八十度にて沸くべき水が地にあふれ
命育む奇跡の惑星

季節みな美しい国の風景は水ありてこそ
奇跡の造形

ありふれし水の怒りが汚染水廃炉への道
ぬかるみにして

ありふれた水の怒りです汚染水凍結拒み
海へひた寄す

自然から核の力を解き放ち為す術無くて
フクシマはあり

スリーマイル、チェルノブイリの事故あ
りてフクシマありき被爆せし国

核を解き放ちしは誰か科学者の端にいる
我が胸に問わねばならぬ

自然から核解き放ち為す術の無き学問を
学び教えき

被爆せし国の首相が原発を売り込みに行
く魂売るか

満開の桜幾度数えたかまだ核はありフク
シマもあり

(川柳)

地震津波噴火原発ここに置いとくよ

メルトダウンのど元過ぎて再稼働

再稼働やむなしという不道徳

廃炉せよ持っているから使いたい

炎暑や痴れ者どもが再稼働

武器原発魂も売る被ばく国

地震津波噴火さあ目を閉じて再稼働

繰り返す核の過ち再稼働

再稼働神も仏も拝むだけ

フクシマは運が悪いと再稼働

フクシマで廃炉する国しない国

魔の月の八月選び再稼働

絶対に安全はない再稼働

パンドラの箱開けたのは誰ですか

パンドラの箱飛び出した放射線

パンドラの箱漏れ出した汚染水

パンドラの箱開けたがる人ばかり

パンドラの箱は宝の箱じゃない

満開の桜幾度廃炉まで

◇安全保障と辺野古基地問題など

(短歌)

靖国に頭深深宰相の眼鎖国か列島吹雪く

九条の国が辺野古を埋め立てて異国に基

地を贈る悲しみ

沖縄は辺野古に基地もなお続く民族の悲

劇も許さぬと起つ

辺野古の海一滴たりとも差し出さぬ静か

なる怒り海越えて行く

屈しない三万五千の静かなる意志辺野古

NO海鳴りとなる

辺野古の海基地にさせぬと一点の偽りも

なき知事の直言

辺野古の海硫酸銅の色に澄み屈しない沖

縄の朝に輝く

国民の安全安心言う人よ沖縄の人は国民
ですか

日本を取り戻すという安倍首相沖縄・フ
クシマ入っていますか

自己愛に幼児のごとく自縛して道を誤る

政治家の群れ

怒髪さえ地を這い天を衝かぬ世に空高く

飛ぶつばめよ何見る

碧きまま人事をよそに辺野古の海澄みて

ジュゴン、サンゴ育む

アメリカという国がなければない悲劇悲

劇と思わぬ日本を憎む

日本国憲法を読みし夏の日の心のままに

爆心に立つ

人がみな平和に生まれ生きる国九条の国

を変えてはならぬ

憲法九条かたちは心であり心はかたちに

なるというまこと

誰一人殺し殺されてはならぬだから九条

変えるなよと友

二億年銀杏は銀杏戦せぬ国のかたちはま

だ七十年

季節みな美しい国の人、政治美しくあれ

それを誇らむ

明らかな深層崩壊この国の心とかたち葬

り去るか

同盟や原発よりも九条の価値は重いと思

わないのか

いのち幾千万焼き尽くし積む灰の中に生

まれた九条何度も読むとき
『道はただ一つその道をゆく春』と暮ら
しに憲法生かした虎さん

憲法を暮らしの中に生かそうと「ひとり
九条の会」を始めぬ

九条を逆さまに読む日本語にも言わな

ければ戦はじまる

敗戦を終戦と呼ぶ日本語のごまかし許せ

ば戦争も平和

武器軍隊なぜ持ちたがる人はみな何も持

たずに生まれて来たのだ

昨日今日平和断絶明日戦許さぬ覚悟九条

を読む

季節みな美しい国にありふれた奇跡の九

条守る人、人

いのち幾千万燃え尽きて積む灰の中に憲

法九条輝け八月

強制の日本語忘れぬ半島に我は今いてハ

ングル読めず

友好と信義の歴史二千年憎悪百年遠き隣

国

(川柳)

国民の審判受けずなくずす

国禁の九条破る姑息な手

徒党組み戦争をする自衛権

公明の意味を思わず辞書で引き

憲法は素直に読めば美しい

(二〇一四年七月一日集団的自衛権容認の間
議決定があった)

政権も九条も投げ名を残す

政権を投げた男のコントロール

戦争は平和である アベシンゾウ

愛国の次は武器取れきつと言う

安全安心総理解釈違います

安全安心眠気吹き飛ぶ四字熟語

安倍政権行きはよいよい帰れない

辺野古NOジユゴンもうれし知事選挙

一点の偽りもなき保守の人

一点の偽りもない保守がある

米軍基地持つてけドロボー本国へ

基地つくり持つていくのかあの世まで

抑止力あの世に行つてもまだ言うか

あの世にも米軍基地があるみたい

この道しかない破滅への道一直線

この道は破滅への道安倍古道

安全と政治家言えばそりや危険

戦争は徐々に近づきあつと来る

ありふれた日々にならずか戦来る

戦前と戦後一字を誤るな

一滴の戦死の涙ない戦後

永遠の戦後にした七十

戦前にしてはならない時にいる

戦絶つ九条が生む子の笑顔

九条を心して読む敗戦日

爺婆と子と孫といる平和な日

過去形にしてはいけない平和です

ありふれた奇跡一人の戦死なく

軍事力あつても平和は築けない

九条があれば平和は築けます

辺野古の海一坪たりと差し出さぬ

辺野古の海澄み渡る青怒り込め

普天間の強盗に遣る辺野古基地

抑止力なぜ戦争はなくならぬ

九条の深層崩壊戦争法

祖父満蒙孫ホルムズを生命線

誇らしく辺野古も兵も出すという

わが軍も晴れて二軍になるとい

積極も消極もない平和こそ

侵略より地震津波が怖い国

息子夫恋人父の戦死にまた遭うか

違憲違憲違憲九条存立危機事態

政権の後方支援課NHK

戦争法に当確を打つNHK

魔の月は蟬もファッショと大合唱

生まれ来て殺され殺す世はいやだ

恥知らず憲法知らず政治家に

風の糸切れて政治が遠ざかる

戦せぬ九条の国美しい

戦せぬ国のかたちが美しい

深層にうねる怒りは幾千万

幾千万の眼が国会に注がれる

百万の声が国会を包囲する

◇TPP問題など

(川柳)

国益を売って得する大企業

国破れ大企業だけ生き残る

TPP国が演じる売国奴

瑞穂の国水より安い米作り

TPP水より安い米の国

成長戦略売れるものなら魂も

成長戦略原発も売る武器も売る

成長戦略安けりや腐れ毒入りも

◇政党助成金と団体献金の問題など

(川柳)

政治家の磨いた腕は黄金色

政治家の顔が諭吉に見えて来た

要領よく税金もらい消える党

政治腐敗劣化促進助成金

政党を中毒にした助成金

税献金小選挙区で天下盗る

献金の不思議補助金経由する

知らぬふりすれば違法も合法に

◇その他、身辺雑記など

(短歌)

一心不乱と流行りの歌に聴きし夜に我は

なくした言葉を弔う

未曾有の進歩二十世紀に父、母の小さき

生も刻まれている

父のはや焼かれて白き骨となる私の中の

明治が終わる

人生の重荷が入っているのさと鞆をたた

き笑う友あり

啄木でなければと思う閉塞の時代を超える

獅子たれ我も

二〇一五年閉塞の世に啄木の歌よみがえ

り我を励ます

二億年変わらぬ银杏幼子の手のひらに芽

吹き空に広がる

■大分の素老人

連載「おつちよこチヨイぼけ」(30)

——昭和女、とっこ日記——

オババはつらいよ、とっこい詐欺師…の巻

昔読んだ探偵小説に「オールドミスは

子供が好き」と書いてあった。オールド

ミスとはまたなんと懐かしい響き。いま

どき、ほとんど使われていないと思う。

その証拠に、私は立派な(?)オールド

ミスだが、だれかに「このオールドミス

が!」とか「オールドミスのくせに!」

と言われた覚えがない。自分でも「オー

ルドミスだからなあ」などと思つたこと

がないので、死語になつたのだろう(よ

かつた!)。だが、オールドミスという存

在がなくなつたわけではなく、「オールド

ミスは子供が好き」という傾向も、やは

りあると思う。

その理由は簡単。自分に子供がないと、

子供という存在が珍しいということもあ

るが、「子供」という生き物に邪念なく惚

れ込めるのである。

子供に邪念って何よ?と思われるかも

しれないが、自分に子供があつたら、一

番可愛いのはわが子だから、「この子、確

かに可愛いけど、マセてない?」とか「こ

の子、賢そう。うちの子より頭ええんや

ろな」といちいち、ひっかかりがあつて、

まっしぐらに「きゃあ!可愛い!」と

よその子に飛びつけない。その点、オー

ルドミス(未婚年配女性、出産経験なし)

は、小さい生き物、ふにゃんふにゃんな

のに、生命力が全身にみなぎって、パワ

ーのかたまりみたいなのがそこにある

と、無心に引き寄せられてしまう。

道を歩いていても、ヨチヨチ歩きの様子を見つけると、目を輝かせて見てしまい、度胸があれば、そのヨチヨチの保護者に「可愛いですね。何か月ですか？」などと話しかけてしまう。これが「オールドミスは子供が好き」と世間さまにいわれてしまう所以である（と、思う）。

問題は、通りすがりではないヨチヨチのケースである。つまり、弟の子供であったり、姉の孫というような身内の場合（話は突然、普遍性をなくす）、その「子供が好き」がとんでもない悲劇（喜劇か？）へと突き進んでいくのである。オールドミス（表現が古すぎるので未婚のおばさんとしておこう）は子供が好きだから、バブバブぐらいいしか言えなくて、おねだりもできないのに、勝手に「この服、可愛い！」「このおもちゃ、喜ぶだろうな」と無益な買い物をしてしまう。そこまでは、いいのである。だが、そのくせをつけてしまうと、子供はいくらでも助長し、親はいくらでもつけこんでくる。

バブバブヨチヨチ時代の限定サービスのつもりだったが、誕生日は毎年来る。入園したかと思ったら、入学し、クリスマスとお正月は高額プレゼントとお年玉が当たり前、子供の日にも期待され、はては「運動会で一等賞」「スイミングクラブでキャップに一本線が入った」（どこが偉いのかわからないが、ランクアップしたという印らしい）などという、オババにしてみたらまったく「知らんがな」の世界のことまで、「褒美あんのかなあ、

ちようどオレ、〇〇が欲しかったん」などとと言われると、つい目尻を下げて、OKサインを出してしまう。

問題は、幼いときのおもちゃや本、洋服の類はせいぜい何千円という単位で、それなりにお喜びいただけるのだが、成長と共に金額が上がっていくことである。ついこの間、姉の息子の娘の誕生日にうつかり、「プレゼント、何がええのん？」と聞いてしまった。たかが九歳である。トイザラスで狂喜乱舞しながら、シルバニアファミリーだかのリスやらネズミの一家を選んでいた子が、今年「パパからゲームを買っていいというお許しが出た」と嬉しそうに言い、「これこれ！」と指を指した先にあったのは、ゲーム機、Newニンテンドー3DSメタリックスレツド、一万八七九九円、税込二〇三〇二円。これだけでも、十分むかつく金額だが、ゲーム機ってソフトってものがないと遊べない（二人の甥で学習済み。任天堂、許さん！）。九歳女児、悩みに悩んで、スーパーマリオをお買い上げ。四三一八円。清水の舞台から飛び降りるつもりで買ってやるしかないな、と暗澹たる気分のオババの心境など知る由もないお嬢様は「あ！大変。ケースを買っておかないと、ゲームが壊れるう」とか言って、売り場にUターンなさり、ド派手ピンクのポシエツト風ケースをレジカゴに「買ってもいい？」というお言葉はついで発せられることはなかった。

なんぼ、お姉ちゃんのお買い上げ金額に愕然としていても、その弟（六歳）に

も何かを買わないわけにはいかない。六歳男児は妖怪ウオッチの新製品がお目当てだったようだが、何故か売り場になくて一時間以上あれでもない、これでもないといと迷い、「ああ！これ売ってた！前から探してっつん。これにする」と選んだのは、トミカタウン信号機、一六一八円。信号機だけだから箱も小さい。何とていういじらしさだろうか。オババは思わず「もう一個、何か買ってもいいよ」と言ってしまった。私が悪かったのだ。「これもええのん？」と遠慮がちに言いながら、持つて来た箱の中身はよくわからななし、その場では値段もわからなかったが、まだまだ金額的にお姉ちゃんにはるかに及ばないことは明白。さあ、お金を払いにレジに行くとうとうとき、六歳男児は大好きなミニカーの売り場で立ち止まり、「見てもいい？」と聞いた。ミニカーは一台三〇〇円台。「じゃ、一つだけ買ってレジに行くか」とオババ。

めでたく一台を選んで、レジに行ったら、そこに妖怪ウオッチの新製品がヤマと積まれていたのである。オババが「今日はもう三つ買うたからね」と言った瞬間、六歳男児はカゴの中のミニカーをつかみ、「返してくる！」と走り去り、妖怪ウオッチの方をカゴに入れた。その迅速な動き。DX妖怪ウオッチ三七七八円。よくわからなかった箱のものは四三一八円。それに信号機。まったく、オババはつらいよ。でもオールドミスは子供が好き。多分…。

(A)

世界一周旅行記(16)

ペルーの疲れはココ茶で

若山 哲郎

一月二十八日に南米最後の寄港地ペルーのカヤオに入港してから四日目、三十一日はクスコの町にいます。ペルーでの四日間は最初の日にナスカ、そして三日目にかけてマチュピチュ。昨日の強行軍のため高地ということもすつかり忘れづつ眠りました。おかげで少しはスッキリ。でもまだ海拔三四〇〇メートル油断は出来ません。

高山病といえはその対策はゆつくり行動が一番ですがそのほかにこの国ならではのとっておきの予防があるのです。それはお茶。お茶といっても普通のお茶ではありません。ココ茶です。そうあの麻薬コカインの原料木の葉っぱです。南米ではコカの葉は日常一般的に茶として飲まれており、ボリビアなどではハーブティー全般をマテと呼ぶので、ココ茶は「マテ・デ・ココ」(Mate de coca)と呼ばれてスーパーなどでも普通に売られています。コカの成分を摂取することによる覚醒作用によって「恐怖感を喪失させる」「疲労感を薄れさせる」「空腹感を薄れさせる」「眠気を忘れさせる」などという効果が得られるため、**鉱山労働者**などの重労働者がコカの葉を噛みながら仕事をする習慣があり、また同時に高山病にも効果があります。なお、初期の**ココ・コー**

引にはその名前の由来のコカの麻薬成分が入っていたのだとか、当然ですが今はまったく入っていません。そしてそのお茶は普通にホテルやレストランに置いてあり、誰でも飲めます。コカといつても葉に含まれている麻薬成分は微量なもので特に直接身体には影響がありません。しかし少しの葉でも麻薬は麻薬、現地で飲むことは出来ても国外に持ち出すことは出来ません。普通の紅茶サイズのティーバッグで売られているためつい間違つて旅行カバンに入れて帰国すれば大変なことになります。

さて、クスコといえばインカ帝国の都があつたところ。インカ帝国は、南アメリカのペルー、ボリビア（チチカカ湖周辺）、エクアドルを中心にケチュア族が作った国。前身となるクスコ王国十三世紀に成立し、一四三八年のパチャクテク即位による国家としての再編を経て、一五三三年にスペイン人のコンキスタドールに滅ぼされるまで続きました。インカ文明は、巨大な石の建築と精密な石の加工などの技術、土器や織物などの遺物、生業、インカ道を含めたすぐれた統治システムなどをもっていました。スペインの征服者は悪名高いピサロですがその時の軍の数がわずか一八〇名。いくら鉄砲などといった近代兵器を持っているとは相手とはいえ、周辺のいくつもの部族を征服し大帝国を築いていたインカ、地の理もあり普通なら簡単に負けるはずはあり

ません。しかし、そこは賢い西歐人、インカ国内での内戦を利用しての駆け引き、だまし討ちにより最後の皇帝が処刑されました。それにはキリスト教が利用されました。皇帝に聖書を見せ改宗するようせまつたところ、文字をもたない彼はこの本は喋らないと言つて投げ捨てたところ、神を冒瀆したという理由で処刑したということです。読者の中には信者の方もおられると思うのであまりは言えませんが宗教が果している役割は今も昔もそう変わりはありません。ということでもクスコはインカの町、至る所で精巧な石組みが見られます。またインカの末裔と見られる人々が民族衣装を着て一回一ドルで写真を撮らせてくれます。しかしこの町には殆ど帝国時代の遺跡は残っていません。スペイン人達は自分達の建物を立てるために全てを破壊しその石を利用したからです。私たちが訪れたサン

ト・ドミンゴ教会はインカ帝国の神殿を壊してその上に建てられていました。どちらが神を冒瀆しているのでしょうか。クスコの町五〇〇メートルほど登つた丘には大きなインカの神殿の遺跡がありました。そこにはマチュピチュにもいまして、リヤマというアルパカによく似た動物が奈良公園の鹿みたいにして沢山いました。リヤマもアルパカもラクダ科の動物ですが、リヤマは運搬、食料として利用していたのに対し、アルパカは殆ど毛を刈るために飼育されています。ところ

でアルパカのセーターはカシミアよりも高級で特にベビーアルパカは最高級品。私も思わず一着買ってしまいました。帰国したら山の神に怒られるかも。

さて昼過ぎ、クスコ市内からバスで空港へ、やっと帰れると思つたところ搭乗ゲートで人集り、ペルーのおつさんたちがなやら怒っておりゲートを封鎖、ポリスがいるのになぜか入口が開きません。待つこと一時間、警察の誘導で彼らを刺激しないように私達は別の出口から一旦地上へ降りて歩いてタラップにて飛行機へ。騒動の原因はというと、おつさんらは自分の予約していた飛行機がトラブルでキャンセルになったので抗議していたらしい。なんで我々がこそこ隠れて乗らなければならぬの？ここらでは警察はワイロ次第、彼らの給料は安いため真面目に働きます。日本みたいに高けりやいいというものでもありませんが行きも帰りもトラブルで身をもつて国情を体験しました。というわけで楽しいことも

苦しいこともなんでもありの四日間、首都リマにもどり近くの港カヤオに停泊している我が家にたどり着きました。例によつてその夜遅く船は小さな汽笛をならして港を離れました。これが南米大陸最後の地でした。次は六日後のイースター島、国としてはペルーの前に訪れたチリ領になります。さ、謎の島イースター。次回も楽しみです。

大人の今昔物語 (14)

石川 吾郎

今回もなかなか衝撃的で興味深い内容の話です。平安時代の医療事情の一端を見せてくれます。教科書に出る可能性はゼロ。教科書に出ない度は五／五

丹波守平貞盛、児干を取りし語

（巻二十九ノ二十五）

今は昔、平貞盛の朝臣という武士がいた。丹波の守であつたころ、その任国に棲んでいたが、身体に悪性のデキモノが出てきたので、某という高名な医者まで迎えにやらせ、診てもらつた。その医者の言うには、「これは放つておくと大変なことなるデキモノです。児干という薬を探して治さなければならぬ。それは秘薬である。手遅れになるとその薬をもつても効果はなくなつてしまふ。早くこの児干を探しなされ。」と言つて、帰つてしまふ。

そこで丹波の守、我が子の左衛門尉さゑもんのかみ維衡これひを呼び出して言つた。

「あの医者はワシのデキモノを鋭くも矢傷と診た。あつばれなヤツだ。ましてこの児干という薬を大つばらに探そうとすると、俺のデキモノが実は武士の恥の矢傷だということがミエミエになつてしまふ。そこで相談だが、お前の嫁さんはらんでいたな。それをワシにくれる。」
維衡はこれを聞くと目もくらみ、呆然としてしまつた。とはいふものの、出し惜しみもできないので「よろしゅうございます。差し上げましょう。どうぞお召

しください」と答えると、貞盛「ああうれしや。それではさつそく、お前はしばらく外で、葬りの準備をするのだ。」と堅く約束した。

さて、維衡は件の医者のところへ行って、泣き泣き事情を話すと、その医者もこれを聞いて貰い泣きをしてしまった。医者の言うには、「これを聞くに、実にあさましいことだ。ワシが作戦を練ってやるう。」と、貞盛の館へ乗り込んでいった。

「薬はありましたかな」と貞盛に尋ねると、貞盛「それがなかなかありませんでな。しかたないので、左衛門尉の嫁さんの腹が大きくなっているのを頼んでもらうことになったのですワ」と答える。医者は「それをどうしようというのです。ご自分のタネでは薬にはなりません。はやく別のを手に入れなされ」と言う。これを聞いて貞盛の慌てよう。「どうしようどうしよう。早く探し出してこい。」そこで家来の一人が「飯炊き女がはらんで六月になるそうです」と報告する。「じゃあ、それを早く取ってくるのだ。開いてみると女兒だったの、それは捨ててしまった。またさらに外を求めて、ようやくのこと貞盛は命をつなぐことができた。

さて件の医者に、よい馬と装束、米など様々なものを作って都へ帰らせる段になった。貞盛、子供の維衡をひそかに呼んで「この医者、都でワシのデキモノは矢傷だったので、兎干で治したのだと、世間に言い触らすだろう。お上もワシを頼もしい者として、夷討伐に陸奥の国へ派遣しそうな情勢だ。そのワシが矢傷を負ったとなれば面目丸つぶれだ。そこ

でだ維衡よ。この医者を京の都に帰す前に射殺せ。」維衡「おやすいことです。京に上るところを山中で強盗に襲われたとみせかけ、射殺しましょう。そうとなれば、夕刻に医者を出してください」「それもそうだ」と貞盛。「さつそく準備いたします」と維衡は急いで出て行く。

さて維衡はその足で、忍んで医者に会い事情を告げた。「どうしたものでしょうか」医者はあきれ驚き「ただあなたが何とかうまく立ち回って、私を助けてください」と答える。維衡「都に帰られるにあたって、山まで送りつけられる判官代という役人を馬に乗せ、あなたは歩いて山を越えてください。先日のこと、一生忘れられないほど嬉しく、恩に感じておりますので、このようにお教えするのです」と。医者は手を擦り合わせて喜び、気取られぬようにして、夕刻、都をさして出発した。維衡が教えた通り、山に差しかかると医者は馬から降りて、従者のよう歩いていくと、強盗が出てきた。強盗は馬に乗った判官代を主人と思うようにして、準備したことなので射殺した。従者たちは皆逃げしまい、散り散りになったが、医者は無事に都に着くことができた。一方維衡は館に帰って、医者をして射殺したことを貞盛に報告すると、貞盛は非常によるこんだ。

そうこうするうちに、件の医者は都で生きていたことが聞こえてきて、判官代が射殺されたことが明らかになってきた。これに不審をもった貞盛「これはどうしたことだ。」と詰問すると、維衡は「医者は歩いて従者のような風情でいたのを知

らずに馬に乗った判官代を主人と思い、誤って射殺したのでした」と釈明したので、貞盛は納得し、それ以上の追求はなかった。こうして、維衡は医者に恩を報いることができたのだ。

貞盛の朝臣が婦のはらんだ腹を開き、兎干を取ろうと思ったことは、極めて破廉恥な見である。これは貞盛の第一の部下、館諸忠(たてのもろただ)の娘が語ったことを、聞き継いで、このように語り伝えたものだろう。

《コメント》

ここに登場する「兎干」とは、もうみなさんご想像の通り、胎児の肝臓を指しています。文脈から推察するに、当時これは矢傷の特効薬として知られていたようです。貞盛の酷薄な人間性は、この物語に余すところなく語られています。私は、息子の維衡について興味をもちます。我が妻の身に災難が降りかかってきたので、たまたま被害者風の立場に見えますが、はたしてそうだったのか。父親のために、他の妊婦の兎干を採った(少なくとも二回)のではないか、という疑念は残ります。また兎干を処方する医者にも、咎は免れないところでしょう。記者の最後のコメントでは、貞盛が息子の嫁を犠牲にしようとしたことに対しては激しく非難していますが、他人を犠牲にしたことには何もコメントをしていないことにも、注目してよいと思います。このあたりに当時の人々の倫理観の一端を見せてくれるような気がします。

B級サラリーマン渡世譚(28)

明石幸次郎

引き継ぎ

清楚で育ちのよさそうなGさんから、「明石さん、明日の新幹線の切符です。念のために、六時十二分発で三号車の十二番C席です。宜しいですか?」と、説明をされた後、切符を渡された。明石はぎこちなく「ありがとう、六時十二分発か?」と一言言って、受け取った。Gさんは、明石の一言が気になったのか「転勤されて、二日目に東京へ出張って、大変ですね。おまけに早朝ですね。又、明日は、歓迎会があります。六時までにSレストランに来られるのは、本当に嬉しいです。ご苦労様ですが、お仕事頑張ってください」と、にっこり笑って激励された。

女性から、しかも清楚な美人からやさしく、激励されると単細胞のB級サラリーマンの明石は、単純に頑張るぞという気分になった。Gさんは、誰に対しても、やさしい応対と気の利いた会話が自然と出来る女性らしく、当に職場の花のという表現が相応しい存在だと感じた。こんな女性が同じ課にいるというだけで、これからの職場で、気持ちよく仕事が出来ると思った。

Mさんが、「明石、明日は新幹線の席で待ち合わせや。お前は、三人掛けの通路側や。遅れるなよ。今からNと細かい打

ち合わせを別室でやるので、終業ベルがなったら、直ぐに退社してカバンを買って帰れ。明日は、それを持って机の中にある、名刺とノートを持って来い。韓国はOが担当しているが、この前、バンコクから帰国して、担当になったので、何も解かっていない。Oの上に、Iさんがいるが、この人のおじさんがM商事の社長や。Iさんはスマートでお前と同じ大学や。Iさんは、M商事の中では、一番よく韓国を理解している、この人を押えておくことや。課長はI川さんで、この人は誰に対しても人当たりが良く、典型的なそつの無い、商社マンやなあ。この三人に挨拶して、早くCKDパーツのL/Cを韓国側に開かせる事をIさんにプッシュすることや」と説明があった。

明石は少し疑問に思ったので、「カバンの件は分かりました。高島屋で帰りに買います。今言われたL/Cの件ですが、韓国側から納期を短縮してくれとの電話が直接工場にあったと聞きましたが、まだ、L/Cを韓国側は開設していないのですか？しかしながら、CKDパーツの正式オーダーは、既にM商事から受けているのですね。それであれば、韓国側がL/Cを早く開くに越したことはないですが、L/Cの問題は、M商事と韓国側の問題であって、ウチがM商事に敢えて、プッシュしたら、逆にM商事からすれば、余計なことや、お前とこは、納期短縮に協力せよと言われそうです」と疑

問を述べた。Mさんは「まあ、理屈はそうだけど、韓国側がL/Cを開かれなかつたら、M商事はウチに注文をキャンセルしてくるわなあ。そうなれば、ウチが一番困るで！」と当然にキャンセルが起り得るような口調で答えた。

明石は「それであれば、商社は何の為に入れているんですか？我々、メーカー側からすれば、キャンセルされるというリスクを回避するために商社に口銭を払い、同時に商社の金融機能、貿易機能を發揮して貰う為に、商社を通すのではないですか？」と自説を述べた。横で、そのやり取りを聞いていたN君が「Mさん、明石さんの言う通りですよ！我々が商社に口銭を払って、通すからには、商社が我々に不足している現地側エージェントとの関係、現地情報とリスクヘッジ機能、貿易通信機能など發揮して貰わないと通す意味がないですよ。輸入者側にL/Cを開かせる事は、あくまでもM商事の責任であり、彼等の仕事ですよ。バングラ案件も我々が、余りに前に出てあれこれ指示しても、それなら、口には出さないですが、全て出来るのであれば現地の受注活動までやって下さい、となるのではないですか？メーカーの我々と、商社との役割、責任分担をはっきりさせる事が韓国のみならず、バングラの入札でも大事であって、明日の出張の目的でもあると思いますよ」と、二人に反論された形になったMさんは「そんな事は、俺も重々

承知のすけや！ウチのリスクを出来る限り少なくする為に商社を入れているのであり、韓国は外貨管理を政府がやっている為、政府の輸入許可が事前に下りないとL/Cが開かれない。その事に毎年時間がかかっている、下りてから工場に製作を掛けても間に合わない。そんなんで、俺はM商事のIさんと何度もソウルに出かけて、D工業に早く政府の輸入許可を貰って、直ぐにL/Cを開いてくれと交渉しているのや。そうでないと我々は製作しないぞ、と強く申し入れているが、いつも中々開いてこない。それにも拘らず、納期だけは早くしろと言ってくる。あいつらは、本当に自己主張だけが強く、こちらの立場を全然理解しようとしれない。国民性やな、やりにくい相手や！」と自分の正当性を述べて、自説を曲げようとしなかった。

N君は「Mさん、国民性とは言い過ぎだと思えますよ。それは、Mさん自身の偏見で、あちらはあちらの事情があるのと違いますか？それに明石さんは、今日転職して来られたばかりで、現状もまだ、充分に理解されていないのに、これ以上議論しても、Mさんの自説を聞くだけになりますよ。肝心な、どう改善したらお互いがハッピーになるかという、本当の話し合いにならないのと同じですか？改めてM商事を交えて話し合ってくださいよ。それに、明石さんも私も、今日は飲みに行く約束があるので、話はこれ位にして、

バングラの話をやりませんか。一時間くらいで終らせて、その後、レポートを書き上げ、東京のN本さんに明日渡さないといけませんし、S工場にも納期と採算の確認を取らないといけませんので宜しいか？」とMさんに向かって個人的な事情も交え意見を述べた。

「分かった。お前等二人共、仕事よりも飲みに行く事の方が大事何んやなあ！」と二人に対して、皮肉を言ったので、素早くN君は「Mさん、仕事もそうですが、飲みに行つて友人と交流を深める事も両方大事なことですよ。その事は、我々の上司のK部長が毎日実践されておられるのと違いますか？昼間の仕事は効率よく早く切り上げて、夜の仕事、飲むことも一生懸命しないとA級の営業マンにはなれないぞ、と言われてますよね」と反撃した。



偶然性と確率論、あるいは未来予測

大江 雉鬼

朝、出かけるとき、天気予報をチェックする。雨が降りそうなら折りたたみ傘をカバンに忍ばせる。人によつては降水確率が四〇パーセント以上なら傘を持つようにしているかも知れないし、お天気おねーさんが傘を用意してと言ったかどうかに重点を置いていても知らない。あるいは天気予報は見るだけで、財布や定期と同じようにいつも傘をカバンに入れてる人もいるだろう。

パターンはさまざまなのだが、これらは、これから起こるだろう事柄に対する姿勢のいろいろである。これが空模様の話ではなく、交通事故に遭うかどうかならどうだろう。可能性の話でいえば、たぶん大幅に少なくなるはずだが、ゼロと決めつけることはできない。対策可能かどうかが絡むので、傘とは次元が違うのだが、これから先に起こることへの関心であるには変わらない。「交通」を外してしまえば、外出しなくても事故に遭う可能性は、家の中にも存在する。そんな具合に範囲を広げていくと不安に押しつぶされて何も手に付かなくなる。

一方、付きあいで買った宝くじに当たるとか拾った馬券が的中していたとかの思わぬラッキーならどうだろう。事故と同じように、可能性を言うだけならゼロではないのだから、先ほどの不安は相殺される。方向がラッキーとアンラッキーのどちらを向いているかはさておき、とにかく将来は気になるものであり、気に

するのが人間の常である。

予報なのか予想なのか、それとも予測か予知か、信頼度によって呼び名は変わるとはいえ、人は常に眼差しを将来に向けている。なぜそこまで将来を気にするのかという問いがあるとすれば、人は本来的には将来など分らないからだとするのは、かなり説得力のある意見だ。分らないのがデフォルト(初期値)だからこそ分かるように工夫しないしは努力、あるいは悪アガキをするのである。

これに対して、不可知への本能的な挑戦などではなく、手が届く説明可能なものだからこそ手を伸ばすのだとする立場もある。将来は分からないと決めつけるのは、世の中の出来事は偶然に支配されていると考えるからであり、偶然とは、因果律で説明できない事象と定義されるのだから、将来なんて分からないよと嘯くのは、原因と結果の連鎖を重視する世界観、すなわち科学を否定する発想であると断罪する立場である。

先に「予報なのか予想なのか、それとも予測か予知か」という言い回しを用いたが、実はこれは信頼度云々というよりかは、偶然性の関与をどこまで排除できたかと言った方が正しい。世の中は偶然に支配されているわけではない、とはあらゆる事象には原因があるということなのだから、原因となるすべてを的確に指摘できるのなら、プロ野球の順位であれ、有馬記念の勝ち馬であれ、それに言及するのは予想ではなく、予言ないしは預言である。ところがそんなことが現実には起こり得ないのは、科学をどれほど信奉

しているとしても十分すぎるくらい分かっている。「原因となるすべてを的確に指摘」することが困難を通り越して、不可能の領域に属しているからである。かつて、ある瞬間におけるすべての物質の状態が完全に把握でき、かつ解析できるのであれば、未来は過去と同じように全てが見えることだろう」と言った数学者がいたという。しかし、知性の完全勝利を宣言するはずだったその言葉は、現代ではSFやアニメの世界で取りあげられる程度のものとなっている。

テクノロジーの進化によって事象観測のレベルが上がれば、把握できる領域もどんどん増えていくはずだ、そうすると予言書もいずれば可能になるのではないかと考える人もいる。ところが観測精度の向上は、よりミクロのレベルでの観測の不可能性を証明したという。詳しくは理解も追いつかない話になってしまっているが、素粒子の世界にまで入り込むと、神はサイコロを振らないどころか、ある瞬間における粒子の状態は確率的にしか把握できないらしい。

結局のところ、将来は何が起こるか分からないというところに戻ってくるのだが、それは、世界は偶然に支配されているという発想からもたらされる不可知論ではなく、あり得るに達しない事象の確率的な組み合わせでしか認識できないということなのだろう。もちろん、素粒子レベルでいうところの不確定性と、人間のナマの感覚が捉える不可知とを同一平面で扱うのは、それこそSFかアニメである。しかし、それでも、日常的に言

うところの将来なるものは、可能性と確率論で処理した方がよさそうだ。

ということでは未来予測のイメージを捉え直すなら、差し詰め、可能性を「あらゆる」に近いところまで数え上げ、それぞれの確率を「あたり限り」厳密に計算し、結果として起こるだろう事象をパーセンテージで示すという形になるだろうか。それなら、予言書も現実味が出てくるかも知れない。スーパーコンピュータの性能が一般のニユースで取りあげられるご時世なので、ハードウェアや計算のアルゴリズムをあこれこれすれば、その手のアイテムもSFやアニメの世界に閉じ込めておかねばならない話ではなくなるということである。あちらの世界では、AI(人工知能)が活躍するのはもはやありふれたプロットだが、感情を含めた人間の知性を再現するプログラムと、天気予報なみに行動の根拠とするに足る確率(信頼度)で未来を計測するプログラムとは、どちらが先に実現するか、ちよつと楽しみなどところでもある。

とはいえ、予言書(汎用性のある未来予測プログラム)が実現したとしても時間の壁は大きな問題として残る。一秒後に起こるだろう事象をその〇・五秒前に九九・八%の正確さで言ってももらったところで、あまり嬉しくない。それよりは三日後に起こるかも知れないことを、いまこの瞬間に一四・七%程度の信頼度で教えてくれた方が役に立つ。しかし、三日前の時点で三日後を知ってしまうとそれに対する準備を、どういう形であれ、取ってしまうのが普通だが、これは最初

記憶の河原町

に三日後を計測した時点では条件に数えられていないはずである。つまり三日後を計測すること自体によって、結果の信頼度は低くなってしまいうわけである。それでは三日後を二日に縮めて対処行動を起こせる時間を少なくすればどうか、あるいはプログラムが予測した結果は情報統制を掛けて極秘事項とする云々の操作を進めていくとどうだろう。だが、これらが茶番であることは明らかである。そもそも極秘事項にして対処を禁じるのならば予測の意義は存在しなくなるし、予測のスペンを短くすれば、行き着く先は一秒後に起きることをその〇・五秒前に予測するという、屁の突っ張りにもならない事態なのだから。

ある程度、科学的に可能性のある未来予測プログラムにはこうした時間のジレンマがつきまとうわけだが、予測を公表した後で発生すると推測される人為的な対処行動さえもあらかじめ可能性の範疇で確率的な処理を受けている、いわゆる「誤差」の範囲に含まれているのなら話は変わってくるかも知れない。しかし、誤差が議論の俎上に登場すれば、予測に対して一人の人間がおびえて竦むのも誤差だろうし、国家的なプロジェクトで対策が検討されるのも誤差と言われかねない。そして挙句は、数十人ないし数百人が生きるか死ぬか、さらには一つの国家が栄えるか滅びるかなど、悠久の時間と無限の空間からすれば、ちっぽけな誤差の範囲だといった壮大すぎる議論のなかへと拡散し、そして消えていく。

八月中旬、長らく改築工事をやっていたBAL（京都・河原町通のファッシュビル）がリニューアルオープンとなった。かつてのBALは、河原町界隈での待ち合わせ場所によく利用されていた。建物が大きくなって目立っていたことに加え、河原町通に面した入口が限られていたので、ひと言「BAL前に集合」というだけでピンポイントの場所指定となつたからである。三条京阪の「土下座前」（高山彦九郎の銅像前）と並んで、二天待ち合わせスポットだったわけである。

携帯電話が当たり前になってからは待ち合わせのスタイルも様変わりしたらしい。場所の指定などは、大雑把に〇〇駅前とかいった程度でしか行わず、現地に到着してからお互いがどこにいるかを確認しあって落ち合うのだそうだ。このスタイルに馴染んでいる世代にすれば、少し想像しづらいかも知れないが、かつての待ち合わせは、前もってかなり厳密に場所と時間が決められていた。実際、そうでもしておかないと合流ができなかったりするからだ。そんな環境のなか、「BAL前」というだけで事足りたこの建物は、河原町のランドマークでもあった。それだけに、三年前にBALが閉店となつた時には、さすがに一つの時代が終わつたんだなと思わせたものである。

ところで、BAL閉店に先立って、も

編集後記

うろこ雲が秋の気配を感じさせるようになってきましたが、日本の政治状況は熱気を一段と増してきています。

八月三十日、「全国一〇〇万人大行動」に大阪・扇町公園へ参加しました。会場は、人人であふれかえって天満駅もパンクしそうなくらいの参加者。足の悪そうな婆さんや女学生、まさに老若男女がわいてくるように集まってきました。

私は、初めてのデモで不安もあったのですが、私のような不慣れた参加者がいっぱい「ああ、来てよかった」と。理屈は、どうあれあれ「戦争はアカン」のプラカードをもらい全員で高く掲げました。扇町公園周辺が赤色に染まります。

その時、自分が大きな時代の潮目に立っていると実感しました。

世界が見ている。アフリカの内戦に苦しむ人や戦争で生死をさまようシリアの人々も、世界中の戦争で傷ついた無数の人が、じっと見ている。アメリカやイギリスなどの人々も息をひそめて見ている。

「日本人は、本気なのか？本気に戦争法案を廃案にするのか。日本が、平和への希望の星になれるのか」

日本人の知性と希望を世界に示す絶好の夢の舞台が始まった。もう引き下がれない。

（嘉）



スイカ (西瓜)

夏の果実に間違いないスイカ。頂きものだけ『半分どうぞ』近所からズッシリと久しぶりにスイカの重みを感じ、早速かぶりつくこんな時、一人が一番。だれも見ていないんだもの。ハア…と大きなため息。田舎では、畠にスイカがころがっていた。

「おいー、よく照ってるで、もう食べごろだ」

ポン、ポンとたたいてうれしいような顔をして父親が抱えている。

井戸の中へ、カラカラ、音涼やかに桶つるべにのって水面へ。

ほどなく「冷えたぞ。あつまれ、切るぞ」待ちきれなくて、井戸の中をのぞきこんだ子ども、すまして集まってくる。

包丁とスイカの運び具合一点を見つめている。「そんなに見るな。上手に切るがなア」と。

それぞれの手にスイカがわたる。「アツ冷たい、美味しい、もうひとつない」

「これでおわり」

田舎の夏の風物詩、あの平和な時間がなつかしい。

戦争は命のやりとり

一九三三年四月に尋常小学校に

入学。通学路で、B 29 が来たらどこに隠れるか教えられた。学校の運動場は、兵隊の訓練場。講堂は軍需工場に。女性竹槍の訓練。人形を作って突く練習。防火、バケツ運び、勉強どころではない。家の中の道具目ぼしいものは供出。富裕家は蔵に隠しているのではないかと、長い剣を下げたおっさんが、ズカズカと入って来て物色。

何にもないとわかったら、思い切り、にらみつけて、チャカ、チャカ剣を振って出てゆく。

今から思えば、コッケイそのもの。いも食べたり、つる芋食べるようなことでは、戦争はもう負けるなア、と友達同志で話してたら、つげぐちで憲兵が来た。

「こどもか、なんだ女か」さげすみでギョロリと目をむいて軍服の兄さん。軍曹か伍長か知らんけど、えらそうにしてた。

私宅には、兵隊に行く男がいなかった。家族は小さくなっていったわ。父親は、せめてこの位のこととは言っていて、慰問袋を送っていたのどこへ持って行き送っていたのか知らないけれど。

当時の苦しさ、切なさを知る人が少なくなっていく中、戦争は命とりなんだということをお互い忘れないうでおこう。

志願してまで特攻兵に、戦いたく

ない人も参加。選択肢のない時代に生きて来た人達、そこから自分たちが現在生きている時代につながっていることを忘れないで欲しい。

朝顔・アサガオ

早朝五時に校門の前を通る。一人ではない。安ペエーの散歩。

朝顔がむかえてくれる。すがすがしい気分ひたる。ことに青色が涼を呼ぶ。

夏休みだから、子どもの目にはとまらなかつたかな。ここまで育て花を咲かすには大変なこと。朝顔は、早起きが自慢の花だから、もつともつと大勢の人に見てほしかったなア。つるは夏がすぎ秋になっても伸びつづけるが花は咲かない。

いつかはゴミのように一束にまくしあげられて鉢もどこかへ片付けられるのだろう。

早朝に咲き誇るアサガオ。早起き競争には対等でなくても、その律儀さだけでも見習いたい。

浴衣の涼は夏のチエ

先日、花火大会に向かう浴衣姿の女性たちとすれ違った「これから花火見にゆくの」と声をかけそうになった。

「時代が違うんだよ、知らぬ娘さんに声をかけてはダメ」

近頃は和服を着る機会が少なくなった。夏に一風呂あびて、さっぱりした素肌に浴衣をまとい素足に下駄、うちわ片手に日本情緒を楽しむのもいいもの。

タンスの中で、眠っている想い出の浴衣をもう一度手を通して思いきり盆踊りをと。はかない夢と終わりそうだ。

俳句

土田 裕

鉢植えの
窶れ明らかなる残暑

立秋と

言われて探す気配かな
なにごとみなきが幸せ

夏終わる

夏草や名も知られざる兵よ
行き交ふは人のみならず

秋の雲